

日本語演習Ⅰ

2単位 3年(前期), 4年(前期)

岸江 信介・教授 / 社会創生学科

【授業目的】 地域方言のフィールドワークを行い、得られたデータの分析を行う。

【授業概要】 地域言語研究法とデータ分析方法の習得を目的とする。日本語諸方言の音韻・アクセント・文法・語彙などの特色を把握する。前期後半では、フィールド調査に関する調査票の作成、フィールド調査の方法等について学ぶ。夏期休業中期間等を利用し、フィールドワークを実施する予定である。現段階で調査地域は未定である。ちなみに、10年度は三重県志摩地方に3泊4日の調査に出かけた。調査地域は、受講生の意見を尊重して決める予定である。後期では、エクセル、音声分析などのソフトの操作法を学習しつつ、受講生全体での共同作業として、調査票の整理、データ入力を行ったあと、各調査項目の分担を決め、各自発表を行うことにする。また、年度末には調査報告書を各自が分担して刊行する予定である。

【履修上の注意】 夏休み(昨年度は9月下旬に実施)を利用して実施するフィールド調査には全員が参加できるようにして頂きたい。

【到達目標】 表計算及び統計ソフトを利用した言語変異の分析と方法の習得

【授業計画】

1. 方言調査とは?
2. 調査対象地域の方言について先行文献を調べる 1.
3. 調査対象地域の方言について先行文献を調べる 2.
4. 調査対象地域の方言について先行文献を調べる 3.
5. 各グループによる調査票の準備と検討 1.
6. 各グループによる調査票の準備と検討 2.
7. 各グループによる調査票の準備と検討 3.
8. グループ毎で調査項目の作成 1.
9. グループ毎で調査項目の作成 2.
10. グループ毎で調査項目の作成 3.
11. 各自(各グループ)による録音機器類の操作方法の習得.
12. 各グループ毎で話者を斡旋してもらうため、調査地へ連絡をとる.
13. 調査票全体の作成 1.
14. 調査票全体の作成 2.
15. 調査票全体の印刷.
16. 調査のしおりの作成と調査の実施.

【成績評価】 成績評価は、発表(30%)・レポート(50%)・ソフト等の習得(20%)といった比率に基づく。フィールド調査には参加すること。調査への参加は出

席点に加える。

【再試験】 無

【教科書】

- ◇ 教科書:特に指定しない。
- ◇ 教材:授業でプリントを配布する。
- ◇ 参考書:西日本諸方言に関する必要な論文、データベースソフトの操作マニュアル等を授業で紹介したい。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219295>

【連絡先】

⇒ 岸江 (088-656-9309, kishie@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 火曜日12~13時 総合科学部1号館1階南棟656-9309:kishie@ias.tokushima-u.ac.jp)

【備考】 フィールド調査への積極的な参加をお願いしたい。